

はじめに

札幌市衛生研究所は、昭和 37 年（1962 年）に公衆衛生の向上を図ることを目的として設置されて以来、感染症のまん延防止、母子関連疾病の早期発見、食の安全や大気・水質環境の確保等のため、保健衛生及び環境保全行政の科学的・技術的拠点として試験検査・調査研究を行っており、今年度で 60 周年を迎えます。

令和元年（2019 年）12 月、中国武漢市において新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が確認されてから感染が拡大し、世界中で 6 億 3,000 万人以上の確定症例と 650 万人以上の死亡の報告（11/8 現在）、日本では感染者は約 2,300 万人、死亡者は約 4.7 万人（11/12 現在）を超え、札幌市も例外ではなく陽性者は 40 万人、死亡者は 1,300 人（11/12 現在）程度と被害は大きく、社会・経済活動にも大きな打撃となっています。

このような状況下、国内外問わず感染拡大の防止に努め、ワクチンや抗ウイルス薬を開発し臨床へ浸透させるなどして、私たちはこの感染症への対抗手段を手に入れつつあり、通常的生活を取り戻すべく模索しているところです。

一方、感染症法に基づき 4 類感染症に位置付けられているサル痘ウイルスによる感染症は、これまでアフリカで地域的な流行がみられていましたが、令和 4 年（2022 年）5 月以降、欧州、北米等において報告されてから、11 月には全世界で 77,000 例報告されています。当該感染症は、日本では 7 例（11/2 現在）の探知に留まりますが、様々な感染症との闘いには終わりはありません。

当所では、ウイルス感染症の検査・研究機関として、新型コロナウイルスについて、札幌市内の医療機関から保健所を通じて依頼のあった検体の PCR 検査や変異株のスクリーニング、ゲノム解析の分析を行い、感染拡大の防止に重要な役割を果たしており、その他の感染症においても同様に対応していきます。

これからも、札幌市民の健康と安全の維持に寄与すべく、検査技術の研鑽・向上に努めるとともに新たな技術を修得し、国や他自治体の研究機関との連携強化を図り、全力で対応していく所存でありますので、関係各位の皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

ここに令和 4 年度（2022 年度）の札幌市衛生研究所年報第 49 号をお届けいたします。当所でのこの一年間の日常業務及び研究の成果であり、皆様方にはご一読のうえ、これからもご指導いただきますようよろしくお願いいたします。

令和 4 年（2022 年） 11 月  
札幌市衛生研究所長 山口 亮

※ 1 <https://covid19.who.int/>

※ 2 <https://covid19.mhlw.go.jp/>

※ 3 <https://www.city.sapporo.jp/hokenjo/flkansen/2019n-covhassei.html>

※ 4 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/monkeypox-m/2596-cepr/11547-monkeypox-ra-1104.html>

